

令和 7 年度

富山県民 NPO 活動支援ファンド助成事業

5 歳児の挑戦

— 学童ってどんなところ？はじめての放課後体験 —

事業成果報告書



特定非営利活動法人 結の会

発行：令和 8 年 3 月

目次

はじめに 1

1. 事業実施概要 2

2. 体験を通して見られた成果 3-4

3. 実施を通じて見えてきたこと 5

4. 今後に向けた課題と展望 6

おわりに 7

資料 8-9

参考資料 10

はじめに — 就学期をめぐる「小1の壁」と地域の役割 —

近年、共働き世帯の増加や就労形態の多様化により、就学期を迎える家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。小学校入学は子どもにとって大きな節目である一方、保護者にとっては放課後の過ごし方や学童保育の利用に関する不安が生じやすい時期でもあります。

こうした状況は、いわゆる「小1の壁（1年生の壁）」として語られ、就学に伴う生活環境の変化や放課後の居場所確保をめぐる課題として、報道や政策資料等でも取り上げられています。

本事業は、就学前の段階で学童保育を体験する機会を設けることで、その段差を少しでも緩やかにし、地域全体で子どもの成長を支える仕組みを考える一つの試みとして実施しました。

Ⅰ．事業実施概要

「5歳児の挑戦」事業は、学童保育の利用を控えた年長児とその保護者を対象に、実際の学童保育を体験していただく機会として実施しました。

就学期に向けた不安を少しでも和らげ、いわゆる「小1の壁」と呼ばれる課題を地域で支えていくことを目的とした取組です。

また、今後の継続や発展を見据えた試行的な取組として実施しました。

実施した内容は次の通りです。

- ・ 実施回数：2回
- ・ 実施会場：学童保育施設 2会場
- ・ 参加者数：年長児 2名、保護者 2名

なお、別の1会場でも2組のお申し込みがありましたが、参加者のご都合により当日の実施には至りませんでした。



※写真は個人が特定されないよう加工しています。

2. 体験を通して見られた成果

本事業は、以下の目的に基づいて実施しました。

- 保護者の不安軽減
- 「小1の壁」への予防的支援
- 体験型事業としてのモデル検証

体験会では、学童施設見学、自由遊び体験、保護者向け説明、個別相談等を実施して、学童保育の雰囲気や放課後の過ごし方を、保護者・子ども双方が具体的にイメージできる構成としました。

体験後アンケート（回答2名）をもとに、体験の効果を振り返りました。少人数での実施ではありますが、不安の軽減や制度理解の向上など、体験型支援の有効性を感じられる結果が見られました。

項目	該当人数
不安軽減	1名
理解向上	1名
大変満足	1名
他者に勧めたい	1名

表1 体験後アンケート結果（回答2名）

不安軽減

参加者2名のうち1名において、体験前より不安スコアの低下が確認されました。

体験を通じて、学童の雰囲気や一日の流れを具体的に知ることが、不安の軽減につながった可能性が考えられます。

理解向上

また、2名中1名で制度理解スコアの向上が見られました。実際の現場を見て、説明を受けることで、パンフレットだけでは分かりにくい点が具体的に理解できたと考えられます。

満足度

満足度については、1 名が「大変満足」と回答しました。もう 1 名からも否定的な評価はなく、体験は概ね前向きに受け止められていました。

子どもの反応

子どもからは「とても楽しそう（また行きたい様子）」との反応がありました。特に、子ども同士の交流や自由遊びが印象に残った活動として挙げられています。体験が前向きな記憶として残ったことは、大きな成果の一つといえます。

参加者の声

● 「とても楽しそう（また行きたい様子）」
● 「子ども同士の交流が印象的だった」

表 2 参加者の声（抜粋）

情報ニーズの整理

一方で、定員状況や費用の詳細、各施設の特色比較など、より具体的な情報を求める声もありました。体験の機会とあわせて、分かりやすい情報提供を充実させていく必要があることが分かりました。

参加規模とその振り返り

当初は 30～50 組の参加を想定していましたが、実際の参加は 2 組でした。初年度実施であったことや開催時期の影響などが考えられます。

しかし、少人数での実施により、個別相談の時間を十分に確保でき、参加者一人ひとりに寄り添った支援が可能となりました。今回の実施は、次年度に向けた改善点を具体的に把握する機会ともなりました。

項目	計画	実績
参加組数	30～50 組	2 組
会場数	5 施設	2 施設

表 3 当初計画と実績の比較

※初年度実施であり、広報時期等の影響があったと考えられます。

3. 実施を通じて見えてきたこと

(1) 保護者・子どもへの直接的な効果

- 学童保育の制度や一日の流れについて、より具体的な理解が深まりました。
- 入学前に実際の雰囲気を体験することで、保護者・子ども双方の不安がやわらく様子が見られました。
- 「実際に見る・体験する」ことの大切さを改めて実感する機会となりました。

これらのことから、体験型の取組は、就学前の不安を支える一つの有効な方法であると感じられました。

(2) 事業実施体制・地域連携に関する成果

今回の取組では、6か所の学童保育施設が趣旨に賛同し、そのうち2施設で体験会を実施しました。このこと自体が、大きな成果の一つであったと考えています。

複数の学童保育施設が同じ課題意識を共有し、協力体制を築くことができたことは、今後の広がりにつながる可能性を感じさせるものでした。

一方で、参加希望のあった施設でも体験実施に至らなかったケースがあり、日程調整や準備体制の工夫が今後の課題として見えてきました。

今回の取組は少人数での実施となりましたが、その分、今後につながる多くの気づきがありました。

- 体験の質は、参加人数の多少にかかわらず、満足感や理解の深まりに大きく関わることが分かりました。
- 会場調整や日程設定、急な変更への対応など、運営面では柔軟な準備が大切であることが見えてきました。
- 参加希望があっても実施に至らない場合を想定し、あらかじめ複数の実施方法を考えておくことの必要性を感じました。

これらの点は、次年度に向けてより良い形に整えていくための大切な手がかりとなりました。

4. 今後に向けた課題と展望

「5歳児の挑戦」事業は、保護者の不安をやわらげ、「小1の壁」と呼ばれる課題に地域で向き合うための一つの取組として実施しました。少人数での実施ではありましたが、体験を通して安心感や理解の深まりが見られ、手応えを感じる場面もありました。また、複数の学童保育施設が趣旨に賛同し協力してくださったことは、地域の中で同じ課題意識が共有されていることを示すものでもあります。今回の取組を通して、施設同士つながりや協力の可能性も広がりました。

次年度以降も、まずは無理のない形で継続しながら、参加施設や体験の機会を少しずつ広げていきたいと考えています。

今回見えてきた気づきや課題を大切にしながら、子どもたちと保護者が安心して新しい学校生活を迎えられるよう、地域全体で支える仕組みづくりに取り組んでいきます。



おわりに ― 地域で子どもを支えるために ―

本事業は、少人数での実施ではありましたが、体験の機会が保護者や子どもの安心につながる可能性があることを確認する取組となりました。

「小1の壁」と呼ばれる課題は、一つの施設だけで解決できるものではありません。保育園、学童保育、地域がゆるやかにつながりながら、子どもたちの成長を支えていくことが大切だと考えています。

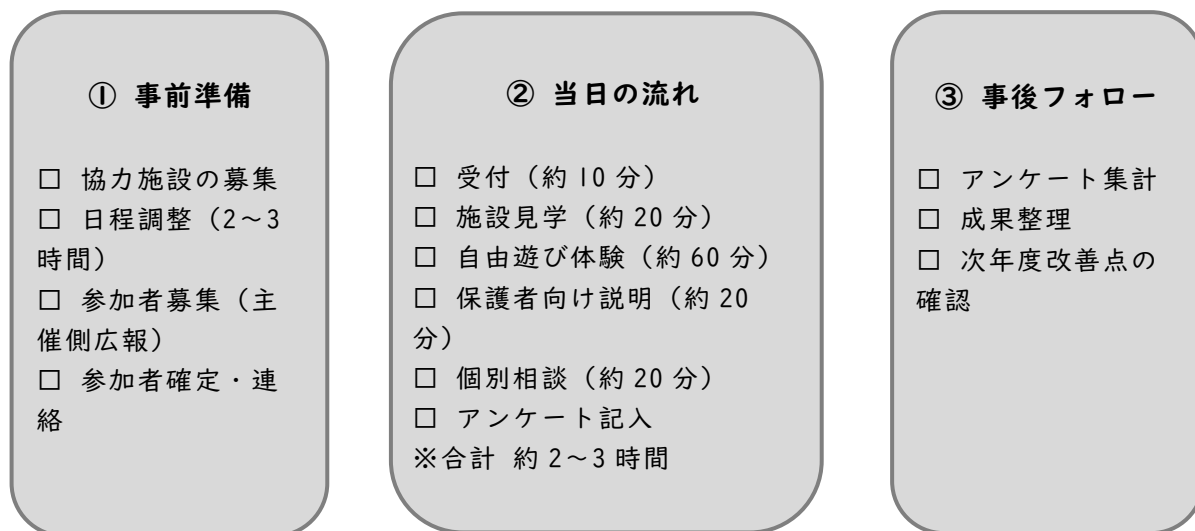
また、本報告書が、各施設での取組を検討する際の一つの参考となれば幸いです。

今後も、子どもたちが安心して新しい環境へ踏み出せるよう、地域全体で知恵を出し合いながら歩んでいきたいと考えています。

本事業の実施にあたり、趣旨に賛同しご協力いただいた学童保育施設および関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

資料 A

「5 歳児の挑戦」体験会 実施フロー（例）



本フローは一例です。既存の学童保育活動を活かしながら、各施設の状況に応じて柔軟に実施できます。少人数での実施から始めることも可能です。

【実施条件の目安】

- ・推奨参加人数：5～10 組
- ・必要職員数：2～3 名
- ・所要時間：2～3 時間

資料 B

体験後アンケート設問（実施例）

【体験前後の変化】

1. 学童利用に対する不安はどの程度ありますか？（5段階）
2. 体験後、不安はどのように変化しましたか？（5段階）

【理解度】

3. 学童保育の制度や一日の流れについて理解は深まりましたか？（5段階）

【満足度】

4. 今回の体験会の満足度をお聞かせください。（5段階）

【推奨意向】

5. 今回の体験会を他の保護者にも勧めたいと思いますか？（0～10）

【自由記述】

6. よかった点
7. 改善してほしい点
8. 今後知りたい情報

※本設問はご自由にご活用いただけます。

参考資料

- ・厚生労働省（2017）『放課後児童クラブ関連資料』社会保障審議会「放課後児童対策に関する専門委員会」
- ・こども家庭庁（2023）『令和４年度 少子化の状況及び少子化への対処施策の概況（報告書）』



令和 7 年度

「5 歳児の挑戦」事業成果報告書

発行日：2026 年 3 月

発行者：特定非営利活動法人 結の会

代表者：理事長 南部 圭祐

所在地：〒930-0942 富山県富山市藤の木園町 64 番地

MAIL：support@yuinokai.org

Web：https://www.yuinokai.org

本報告書は、令和 7 年度富山県民 NPO 活動支援ファンド助成事業として実施した成果をまとめたものです。

本報告書の内容は、地域における実践共有を目的として作成しています。

© 2026 特定非営利活動法人 結の会